

参 考 资 料

第3期大分県科学技術振興指針策定の経緯

年 月 日	事 項
令和4年10月25日	第1回庁内調整会議
11月29日	第1回検討委員会
12月26日	第2回庁内調整会議
令和5年1月20日	第2回検討委員会
2月9日	第3回庁内調整会議
2月13日～3月12日	県民からの意見募集
3月3日	第3回検討委員会
3月末	第3期大分県科学技術振興指針策定

第3期大分県科学技術振興指針検討委員会委員

大 学 等	大分大学 理事（研究,社会連携,産学連携担当）・副学長 医学部 環境・予防医学講座 教授	山岡 吉生 （委員長）
	別府大学 食物栄養学部 食物栄養学科 感染・代謝免疫学 教授 学長補佐	仙波 和代
	日本文理大学 工学部長	室園 昌彦
	立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部 教授	須藤 智徳
	大分工業高等専門学校長	山口 利幸
産 業 界	（株）ザイナス 代表取締役社長	江藤 稔明
	三和酒類（株） 代表取締役社長	下田 雅彦
	（株）デンケン 代表取締役社長	石井 源太
	NAHO DESIGN 代表	松野 奈帆
	（株）村上農園 代表取締役	村上 枝里
	由布合成化学（株） 取締役	藤原 理恵
金融業界	（株）日本政策投資銀行 大分事務所 所長代理	佐野 真紀子

第3期大分県科学技術振興指針庁内調整会議委員名簿

議 長	大分県商工観光労働部	理事兼審議監
委 員	総務部	行政企画課長
	企画振興部	政策企画課長
	福祉保健部	福祉保健企画課長
	生活環境部	生活環境企画課長
	商工観光労働部	商工観光労働企画課長
	農林水産部	農林水産企画課長
	土木建築部	建設政策課長
	教育庁	教育改革・企画課長

第 3 期大分県科学技術振興指針検討委員会設置要綱

(設置目的)

第 1 条 本県における科学技術振興の総合的な指針を策定するため、第 3 期大分県科学技術振興指針検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(委員会の任務)

第 2 条 委員会は、次の事項について調査、審議する。

(1) 第 3 期大分県科学技術振興指針の策定に関すること。

(2) その他、第 3 期大分県科学技術振興指針策定に必要と認められる事項に関すること。

(委員)

第 3 条 委員会は、別表に掲げる委員をもって構成する。

2 委員は、知事が委嘱する。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置くものとする。

2 委員長は、委員の互選により定める。

3 委員長は、委員を代表し、委員会を総理する。

(任期)

第 5 条 委員の任期は、令和 5 年 3 月 31 日までとする。

(招集)

第 6 条 委員会は、委員長が招集し主催する。

(庶務)

第 7 条 委員会の庶務は、大分県商工観光労働部新産業振興室において処理する。

(その他)

第 8 条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附則

この要綱は、令和 4 年 11 月 29 日から施行する。

第 3 期大分県科学技術振興指針庁内調整会議設置要綱

(設置目的)

第 1 条 本県における科学技術振興の総合的な指針を策定するに当たり、庁内各部局間の調整を図るため、第 3 期大分県科学技術振興指針庁内調整会議（以下「調整会議」という。）を設置する。

(任務)

第 2 条 調整会議は、次の事項について調査、審議する。

(1) 第 3 期大分県科学技術振興指針の検討及び部局間の調整に関すること

(2) その他、第 3 期大分県科学技術振興指針策定に必要と認められる事項に関すること。

(構成)

第 3 条 調整会議は、議長及び委員をもって組織し、別表に掲げる職にあるものをもって充てる。

2 議長は、調整会議を代表し、会務を総理する。

(会議)

第 4 条 調整会議は必要に応じて議長が招集する。

2 議長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(庶務)

第 5 条 調整会議の庶務は、商工観光労働部新産業振興室において処理する。

(その他)

第 6 条 この要綱に定めるもののほか、調整会議の運営に関し必要な事項は、議長が別に定める。

附則

この要綱は、令和 4 年 10 月 14 日から施行する。

県内の高等教育機関と県立試験研究機関等の一覧

機 関 名	連 絡 先	所 在 地	電 話 番 号
		ホームページアドレス	
大分大学	研究マネジメント機構 産学官連携推進 センター	〒870-1192 大分市大字巨野原700番地	097-554-7969
		https://www.ico.oita-u.ac.jp/	
別府大学・別府大学短期大学部	地域連携推進センター	〒874-8501 別府市北石垣82	0977-86-6666
		https://www.beppu-u.ac.jp/	
日本文理大学	産学官民連携推進センター	〒870-0397 大分市大字一木1727	097-592-1600
		https://www.nbu.ac.jp/	
立命館アジア太平洋大学	リサーチ・オフィス	〒874-8577 大分県別府市十文字原1-1	0977-78-1134
		https://www.apu.ac.jp/	
大分工業高等専門学校	地域共創テクノセンター	〒870-0152 大分市大字牧1666番地	097-552-6450
		https://www.oita-ct.ac.jp	
京都大学大学院理学研究科 附属地球熱学研究施設	別府（本部）	〒874-0903 別府市野口原3088	0977-22-0713
		http://www.vgs.kyoto-u.ac.jp/	
県立看護科学大学	看護研究交流センター	〒870-1201 大分市大字廻栖野2944-9	097-586-4300
		https://www.oita-nhs.ac.jp/	
県立芸術文化短期大学	総務企画グループ	〒870-0833 大分市上野丘東1-11	097-545-0542
		https://www.oita-pjc.ac.jp/	
県立工科短期大学校	管理部	〒871-0006 中津市東浜407-27	0979-23-5500
		https://www.oita-it.ac.jp/	
産業科学技術センター	企画連携担当	〒870-1117 大分市高江西1丁目4361-10	097-596-7101
		https://www.oita-ri.jp/	
衛生環境研究センター	企画管理担当	〒870-1117 大分市高江西2丁目8	097-554-8980
		https://www.pref.oita.jp/site/13002/	
農林水産研究指導センター 本部	研究企画担当	〒879-7111 豊後大野市三重町赤嶺2328-8	0974-28-2074
		https://www.pref.oita.jp/soshiki/15082/	
農林水産研究指導センター 農業研究部	企画指導担当	〒879-7111 豊後大野市三重町赤嶺2328-8	0974-22-0671
		https://www.pref.oita.jp/soshiki/15083/	
農林水産研究指導センター 畜産研究部	企画指導担当	〒878-0201 竹田市久住町大字久住3989-1	0974-76-1214
		https://www.pref.oita.jp/soshiki/15087/	
農林水産研究指導センター 林業研究部	企画指導担当	〒877-1363 日田市大字有田字佐寺原35	0973-23-2146
		https://www.pref.oita.jp/soshiki/15088/	
農林水産研究指導センター 水産研究部	企画指導担当	〒879-2602 佐伯市上浦大字津井浦194番地6	0972-32-2155
		https://www.pref.oita.jp/soshiki/15090/	
（公財）大分県産業創造機構	地域産業育成課	〒870-0037 大分市東春日町17-20	097-537-2424
		https://www.columbus.or.jp/	

《用語解説》

	用 語	意 味
あ	アバター	ロボティクス、センサー、低遅延の通信、実際に物の感触を疑似的に伝える技術等の先端技術を複合的に用いて、離れた場所のロボットを遠隔操作し、あたかもそこに存在しているかのようにコミュニケーションや作業等を行う技術のこと。
	アントレプレナーシップ	アントレプレナーとは、一般的には「ゼロから会社や事業を創り出す人」（起業家）のこと。ここから派生した言葉である「アントレプレナーシップ」は「起業家精神」、つまり自分でゼロから事業を起こそうとする精神を意味する。
い	イノベーション	新技術の発明や新規のアイデア等から、新しい価値を創造し、社会的変化をもたらす自発的な人・組織・社会での幅広い変革のこと。
	インキュベート施設	創業する者もしくは創業間もない企業に、場所、人材、情報等を提供し、支援する施設。
う	うまみだけ	乾しいたけの生産量全国 No.1 の大分県から生まれた、新ブランド商品。
え	エレクトロニクス	電子の応用に関する学問並びに技術を総称する言葉で、電子工学、電子技術などと訳される。半導体や回路についての応用技術のことも指す。
お	おおいた和牛	品質の高い豊後牛の中でも美味しさにこだわった農場で育てられた肉質4等級以上のものだけを選んだ逸品。
	温室効果ガス	大気を構成する気体であって、赤外線を吸収し再放出する気体のことをいう。地球温暖化対策の推進に関する法律では、二酸化炭素(CO ₂)、メタン(CH ₄)、一酸化二窒素(N ₂ O)、ハイドロフルオロカーボン類(HFCs)、パーフルオロカーボン類(PFCs)、六フッ化硫黄(SF ₆)、三フッ化窒素(NF ₃)の7物質が温室効果ガスとして定義されている。
か	カーボンニュートラル	人間活動を発生源とする温室効果ガス排出量と吸収源等による除去量が均衡する(実質的な排出量がゼロとなる)こと。
	介護ロボット	ロボット技術を利用した介護者の負担軽減や利用者の自立支援に役立つ介護機器。国においては、①移乗介助、②移動支援、③排泄支援、④見守り・コミュニケーション、⑤入浴支援、⑥介護業務支援の6分野について、重点的に開発・実用化を進めることとしている。
	かぼす養殖魚	養殖魚の出荷前の仕上げとして、ポリフェノールなどを含有している特産の「かぼす」の粉末などを養殖飼料に添加して育成した大分県産ブランド魚のこと。

き	気候変動に関する政府間パネル (IPCC)	IPCC は Intergovernmental Panel on Climate Change の略。1988 年 (昭和 63 年) 国連環境計画 (UNEP) と世界気象機関 (WMO) により設立された組織。人間活動による気象変化、影響、対策に関し、科学的、技術的、社会経済学的な見地から包括的評価を行う。
	技術士	科学技術に関する技術的専門知識と高等の応用能力及び豊富な実務経験を有し、公益を確保するため、高い技術者倫理を備えた優れた技術者。技術士法 (昭和 58 年 (1983 年) 4 月 27 日法律第 25 号) に基づく日本の国家資格。
	キャリア・ノート	児童生徒が考えたことや思ったこと、頑張ったことなどを書き残し、自らの成長を振り返ることができるノート。このノートは小学校 1 年生から中学校 3 年生まで活用し、高校にも引き継いでいくもの。
く	グリーン・コンビナート おおいた	大分コンビナートの強みを最大限に活かし、県内総生産当たりの CO2 排出量が一番多い大分が、ホワイト・ブルー・グリーン水素等の活用やカーボンリサイクルを進め、県内・九州の企業のみならず日本・アジアのコンビナート製品利用者にもカーボンニュートラルの価値を提供する。
	クロスアポイントメント	研究者等が大学、公的研究機関、企業の中で、2 つ以上の機関に身分を置きながら、それぞれの機関における役割に応じて優秀な専門人材が研究・開発及び教育に従事することを可能にする制度であり、これらの人材の流動化が促進され、イノベーションが絶えず生み出される好循環につながる社会づくりを進めていくことが期待される。
け	ケミカルリサイクル	マテリアルリサイクルのうち、廃棄物等を化学的に処理して、製品の化学原料にすること。
	健康アプリ「おおいた歩得 (あるとっく)」	日常のウォーキングや健診などによって健康ポイントが付与され、ポイントが貯まると県内の協力店舗にて特典が受けられるスマートフォンのアプリ。
こ	広域普及指導員	県域を活動範囲とし、研究・教育・行政との連携の企画調整・推進、試験研究機関等との連携強化による研究開発への参画や専門技術の高度化並びに政策課題への対応、重要課題の解決に向けた普及指導活動の企画立案・総括・指導、普及指導員の資質向上を業務とする農業革新支援専門員のこと。
	光化学オキシダント	光化学スモッグや、健康被害を引き起こす大気汚染物質。
さ	3R	循環型社会を構築していくためのキーワード。Reduce (リデュース: 減らす)、Reuse (リユース: 再使用)、Recycle (リサイクル: 再資源化) の頭文字をとったもの。

し	種雄牛	食肉用、乳用とそれぞれの目的にかなった優れた遺伝子を持つ雄牛。各地の種雄牛センターなどに登録され、人工授精などに使われる。
す	スーパーサイエンスハイスクール	大学や研究機関等と連携してカリキュラムを開発するなど、理数系教育の充実を図る取り組みを行う高等学校等を文部科学省が指定するもの。県内の指定校は大分舞鶴高等学校（平成17年度～）、日田高等学校（平成23年度～）及び佐伯鶴城高等学校（平成29年度～）。
	スマート技術 スマート農林水産業技術	ロボット技術やICT、人工知能などを活用して、省力化や生産物の高品質化を可能にする新たな農林水産業のこと。
	スマート保安	プラントの監視、点検にドローンなどのテクノロジーを活用すること。
ち	知的財産	発明や創作によって生み出されたものを、発明者の財産として一定の期間保護する権利。
	超スマート社会	必要なもの・サービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供し、社会の様々なニーズにきめ細やかに対応でき、あらゆる人が質の高いサービスを受けられ、年齢、性別、地域、言語といった様々な制約を乗り越え、生き活きと快適に暮らすことのできる社会。
て	データヘルス改革	ICTを活用した健康管理・診療サービスの提供や、健康・医療・介護領域のビッグデータを集約したプラットフォームを構築していく厚生労働省の戦略のこと。
	デジタルリテラシー	デジタル技術を理解して適切に活用するスキルのこと。
に	ニッチトップ企業	規模の小さい隙間市場において、圧倒的なシェアを誇る企業のこと。
ひ	ビッグデータ	インターネット等の情報通信の発達に伴い、蓄積された莫大な量のデータ。
	Beyond 5G	5Gの次の世代、2030年代の無線・有線を含めた目指すべきネットワークのあり方。
ふ	5G	「第5世代移動通信システム」のこと。5GのGとはGeneration（世代）の略であり、4Gを発展させた「超高速」だけでなく、「多数接続」、「超低遅延」といった新たな機能を持つ次世代の移動通信システム。
	普及指導員	地域を活動範囲とし、農業者の高度かつ多様なニーズ及び地域の課題に的確に対応するため振興局に配置され、地域に密着した効率的な普及指導活動を行う者。
	プロダクトアウト	販売戦略の一種で、「企業側の思想や技術などを主軸として、製品やサービスを売り出すこと」を意味します。製品ありきの販売戦略のことで、自社の強みを生かした製品づくりを指す。

へ	ベリーツ	大分県が8年の歳月をかけ育成した県オリジナルのいちご品種。正式名称は「大分6号」で、「スイーツみたいなストロベリー」から「ベリーツ」の商標名で生産拡大、ブランド化に取り組んでいる。いちごらしい鮮やかな色づきやシーズンを通じた糖度の高さ、大きな果実などが特徴。
ま	マーケットイン	市場や購買者などの立場に立って、市場などが必要としている商品を生産・販売しようとする考え方。
	マテリアルリサイクル	製品の材料又は原料として再利用すること。
め	メカトロニクス	電子工学と機械工学を結合した技術、またその技術を応用した電子機器装置のこと。
り	リカレント教育	職業人を中心とした社会人に対して学校教育の修了後、一旦社会に出た後に行われる教育であり、職場から離れて行われるフルタイムの再教育のみならず、職業に就きながら行われるパートタイム教育も含む。
	リスキリング	新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適応するために、必要なスキルを獲得する・させること。近年では、特にDXの急速な進展に合わせた実践的な職業訓練を意味することが多い。
れ	レジリエント	英語で「強靱さ」を意味する言葉である「レジリエンス」の形容詞。地域においては、災害などの突発的な変化や平常時の重圧に対して、より着実に耐久し、適応するための能力とされている。
よ	要素技術	製品を構成する要素に関する技術。製品の開発に必要な基本技術。製品の根幹をなす技術。
A	AI	Artificial Intelligence の略で、人工知能のこと。学習、推論、判断といった人間の知能の持つ機能を備えたコンピュータシステム。
B	BIM/CIM	Building Information Modeling / Construction Information Modeling (Management) の略。調査・測量～計画～設計～施工～維持管理のライフサイクルにおいて、3次元データを一体的に活用する取組。
D	Ds-Labo	ドローン産業や電磁応用産業の推進を目的に、大分県産業科学技術センターに設置された研究開発施設の名称。世界最大級の磁気シールドルームや、電磁波試験を実施する電波暗室、共同開発を行うためのリサーチルーム、ドローン飛行試験用テストフィールドから構成される。
	DX（デジタルトランスフォーメーション）	企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。それによって企業として安定した収益を得られるような仕組みをつくること。

E	EC 市場	EC (E-Commerce : イーコマース) で取引される場のこと。EC は Electronic Commerce の略。インターネットなどのネットワークを介して契約や決裁などを行う取引形態のことで、インターネットでものを売買することの総称。
	EDISON (エジソン)	大分大学や県内企業等が中心となって開発を進めている、防災・減災のための情報活用プラットフォーム。
	EdTech	Education (教育) と Technology (技術) を組み合わせた造語。テクノロジーを用いて教育を支援する仕組みやサービスを指す。
G	GAP	Good Agricultural Practice の略。農業における、食品安全、環境保全、農作業安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取り組み。
	GIGA スクール構想	Global and Innovation Gateway for All(全ての児童生徒のための世界につながる革新的な扉) の略。1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育 ICT 環境を実現するもの。
	GX (グリーントランスフォーメーション)	2050年カーボンニュートラルや、2030年の国としての温室効果ガス排出削減目標の達成に向けた取り組みを経済の成長の機会と捉え、排出削減と産業競争力の向上の実現に向けた、経済社会システム全体の変革。
H	HACCP	Hazard Analysis and Critical Control Point の略。食品取扱事業者自らが食中毒菌汚染や異物混入等の危害要因 (ハザード) を把握した上で、原材料の入荷から製品の出荷に至る全工程の中で、それらの危害要因を除去又は低減させるために特に重要な工程を管理し、製品の安全性を確保しようとする衛生管理の手法。
I	ICT	Information and Communications Technology の略。情報や通信に関連する科学技術の総称。
	IoT	Internet of Things の略で、世の中の様々なモノをインターネットに接続しネットワーク化する、「モノのインターネット」と呼ばれる仕組み。あらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値が生み出される。
	IT	Information Technology の略。情報技術のこと。

Q	QC サークル活動	QC は Quality Control (品質管理) の略。現場で働く従業員・スタッフを小集団に分けて、品質管理・品質改善について自主的に話し合い、意見を出し合って、実際に行動に移していくこと。主に製造現場の工場などで品質管理を目的に取り入れられており、小集団改善活動とも呼ばれている。
	QCD	Quality (品質)、Cost (コスト)、Delivery (納期) の頭文字を並べたもの。製造業において重視すべき3つの要素を指す。
S	SDGs	Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標) の略で、エスディー・ジーズと読む。これは、2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人として取り残さない」ことを誓っている。
	Society5.0	狩猟社会 (Society 1.0)、農耕社会 (Society 2.0)、工業社会 (Society 3.0)、情報社会 (Society 4.0) に続く、新たな社会を指すもの。サイバー空間 (仮想空間) とフィジカル空間 (現実空間) を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会 (Society) を意味する。
	STEAM 教育	Science (科学)、Technology (技術)、Engineering (工学)、Art (芸術)、Mathematics (数学) の5つの英単語の頭文字を組み合わせた造語。5つの領域を対象とした理数教育に創造性教育を加えた教育理念で、探究と創造のサイクルを生み出す、分野横断的な学び。
T	「The・おおいた」ブランド	本県を代表するかぼす、おおいた和牛、乾しいたけ、関あじ、関さばなどの農林水産物と本県特有の自然環境や景観、歴史、文化等を組み合わせ、様々な付加価値を高めることによって「おおいた」を総合的にイメージさせる地域ブランドのこと。

第3期大分県科学技術振興指針

令和5年3月発行

大分県商工観光労働部新産業振興室

〒870-8501 大分市大手町3丁目1番1号

電話 097-536-1111（代表）

<https://www.pref.oita.jp/>